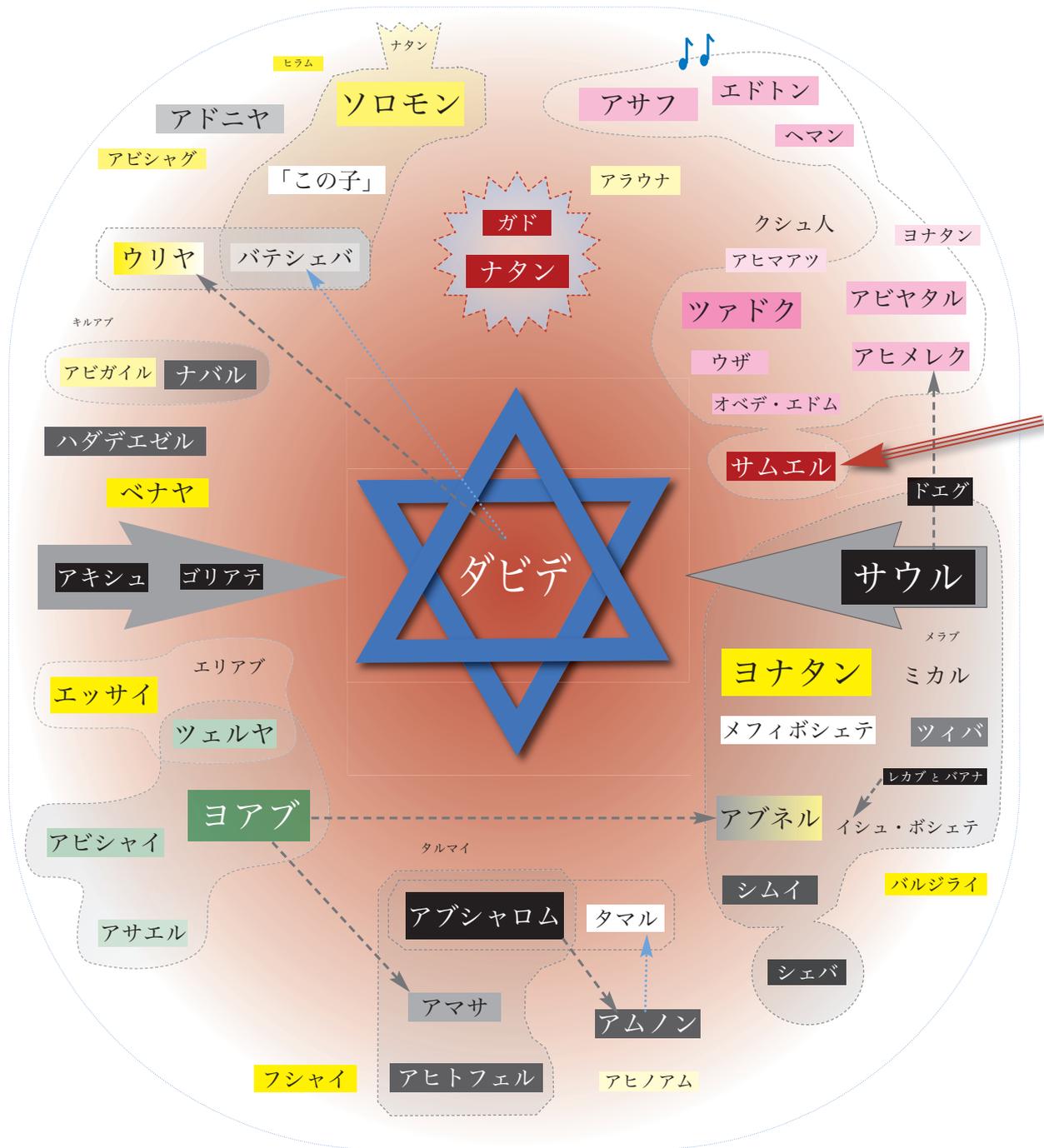


ダビデを



取り巻く人々

サムエルについて

1. 旧約聖書の中でサムエルの名前が出ているのは139回ですが、その中でダビデと関係して書かれているのは、予想に反してただの20回です。(ヘブル書11:32にも一緒に書かれています。)

2. それとは対照的に、彼の名前がサウルとの関わりの中で出ているのは(民が王を求める事も含めて)73回です。また、彼の名前は1サムエル記の最初の7章に35回も出て来ます。ハンナの息子、エリの助手、また国のさばきつかさとしてです。

3. サウルが王に選ばれた時、サムエルはすでに老人でした(1サム8:1)。16章でダビデが油注がれた時は、もっと時がたっていました。

4. サムエルの、サウルとの関係は深いものでした。しかしサウルは11章で良いスタートを切りましたが、すぐに13章と15章で悪くなりました。それで、サムエルの働きは易しいものではなかったでしょう。特にそれが15章に見られます。16章のダビデの油注ぎはサムエルにとって良い変化であり、主からの祝福でした。

5. サムエルとダビデが実際に一緒に見られるのは、1サムの16章でダビデが見出された時と、19章の後半でダビデが初めてサウル王から逃げた時です。それからサムエルが死ぬまで、彼らはおそらく2人で会う事はなかったでしょう(25:1)。22:5で預言者ガドがダビデに助言した事に注目しましょう。

6. ダビデとサムエルが一番多く一緒に出てくるのは16章なので、それがこの学びの焦点になります。

質問

1. 1サム16章の始めの方で、サムエルの心情はどのようなものでしたか？15章の終わりの方にも同じ事が書かれているのに注目して下さい。

2. サムエルは、神様がサウルの代わりにもっと適した人を立てる事を知っていたのに(1サム13:14)、なぜ悲しんだのですか？彼は代わりの王が立てられる事において、自分も用いられる事を知っていたと思いますか？(16章と1列王19:10~18を比較)

3. サムエルは、祭司のようにいけにえをささげました(16:2~5)。しかし1サムエル記には、彼は祭司であった事は書いてありません。彼はレビ人でしたか？(参1サム1:1、1歴代6:16~28)

4. ベツレヘムの長老たちは、サムエルを恐れていましたか(16:4)？だとしたら、それはなぜですか？彼はただいけにえをささげに来たのに(16:5)。彼は人々に、祭司として知られていましたか？他に彼はどのような働きをしていましたか(3:19~20, 7:15~17, 9:9)？サウル王とサムエルの、どちらが力がありましたか？(エレミヤ38:14~28のエレミヤとゼデキヤについても比較)

5. この章で、サムエルについて何か否定的な事が見えますか？最初彼は必要以上に落胆していましたか？ベツレヘムへ行く目的について、彼は真実を隠しましたか(16:2~3,5)？彼はエッサイの長男について間違った判断をしましたか？彼は人を判断するのが下手でしたか？

6. この章でサムエルについて言える事の中で、一番大事なことは何だと思いますか？

サムエルは...

サムエルについて説明して下さい。(16:1~13から、サウル、ダビデ、また他の人との関係において)

() 落胆していた (16:1)?

- () サウルの事で悲しんだ (15:35, 16:1)?
- () ラマの家に留まっていた (7:15-17, 15:34, 16:1, 13)?
- () 神様がサウルの代わりを選ぶのに、自分を導くと思った (13:14)?
- () ダビデを通して、神様に励まされた (16:13)?
- () 1列王19:10~18のエリヤに似ている?

() 祭司 (16:2, 5)?

- () レビ人 (1:1, 1 歴代 6:27-28)?
- () 祭司であったため、人々に恐れられた (16:4-5)?
- () 主に祭司として知られていた (3:19-20, 7:15-16, 15:33, 使徒 13:20)?
- () サウルよりも権威があった (16:1-2, ヘブル 11:32)?
- () サウルから守られた (16:2-5, 13, 22:9-19)?

() 主から導かれた?

- () エッサイの所に行くように (16:1, 3, 5)?
- () 恐れていたにもかかわらず、喜んで行こうとした (16:2-4)?
- () 彼の目的について真実を告げた(16:2-3, 5)?
- () 間違っている事を、神様に正された (16:6-7)?
- () ダビデの事を知らなかった (16:1, 11)?

適用

合っていると思うものには○、違っているものには×、どちらでもないものには△をつけましょう。

サムエルとダビデ

下の左の欄の6つの要点は、サムエルについての事です。聖書は彼について何と言っているか、ダビデとの関わりにおいて聖書からわかることを抜き出しました。右の欄にはその説明と、私たちへの適用があります。

サムエルについて 何が言われていますか？	その意味と、私たちへの適用
1.) 彼はサウル王についてとても失望した。(16:1)	彼が失望したのは、神の民を愛し、また神のみこころが成される事を願っていたからでした。今日でも、教会の指導者が神への仕え方を誤るなら、神に従う人たちの中には同じような悲しみが生まれます。
2.) 彼はサウル王を恐れていたが、それでもベツレヘムに行き、ダビデに油を注いだ。(16:2-4)	サムエルがサウル王の怒りを恐れるのは、当然でした。それでも、彼は恐れを克服し、主に対する信頼を持って注意深く行動しました。今日でも、同じような勇気と行動力が必要です。
3.) 彼は神の預言者として人々から恐れられていたが(16:4)、同時に敬虔な祭司だった。	サムエルは昔の士師のように、強く話したり行動したりしたので、長老たちは彼を恐れました(16:4)。(15:33も参照)しかし真の礼拝の指導者として、彼は皆に自分をきよめるよう命じました(16:5)。
4.) 彼は最初、エッセイの子どもの中で、誰が選ばれた者か見分けることができなかった。(16:6-12)	ダビデは、サムエルではなく主によって選ばれた者でした。今日でも教会の指導者にと、それぞれを召し出すのは、主ご自身です。サムエルは、枢機卿や司教たちを指名するローマ法王のようではありませんでした。
5.) ダビデに油を注いだ後彼はラマへ帰った。(16:13)	ダビデを皆に知らしめたり、彼を王にするために戦うのを助けるような事は、サムエルの仕事ではありませんでした。ただ神様だけが、ダビデの歩みを祝福することができました。それでサムエルは、そのように主に信頼したのです。
6.) 彼は、ダビデが実際に王位につくのを見る事はできなかった。(25:1)	サムエルの生涯は長く、主に用いられたものでした。また彼は、サウルと違って神様の霊がダビデの上にあることを知っていました(16:13-14)。ですから、彼は神のご計画が実現することを確信しながら死んでいったのです。